

2019年10月20日

## 廃校産業と未来

京都産業大学現代社会学部 木原ゼミ

3年次 751610 佐々木佳乃

## 〈要旨〉

私の出身小学校は、今年度をもって廃校になる。以前から、私の地元の市では小中学校の統廃合があったが、これまではどうしても他人事のように感じられていた。しかし、今年に入り自分の母校がその対象になって初めて、ニュースなどで見る子どものいなくなった集落や廃校を活用した施設を身近なものを感じるようになった。

ただなくすのではなく、今後母校を何かしらの形で新たなものへと繋げることができればと思い、全国で行われている取り組みやビジネスについて調査してみた。本レポートでは、それをまとめている。

キーワード

- ・廃校ビジネス
- ・マッチング制度

## 1. はじめに

まず、廃校の現状を分析していきたい。(下記資料参照)

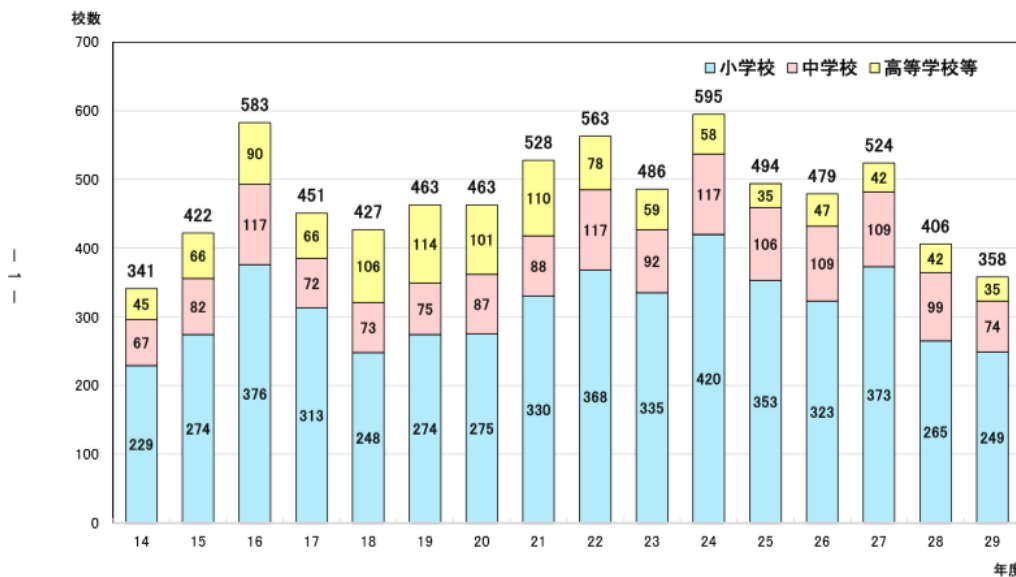
数の増減はあるものの、日本において平成15年度～28年度は毎年400以上の学校が廃校となっている。特に小学校に関しては、全体の6割以上を占めており、若年の人口であればあるほど人口が減少傾向にあることがよくわかる。廃校の発生には様々な理由や事情があるが、大きく分けると以下の3つになる。

- ① 過疎化や人口流出による児童数の減少(人口減少が発生)
- ② 高齢人口の増加による相対的な児童数の減少(人口はあまり減少しない)
- ③ 地域の産業が発展し住宅が移転することによる児童数の減少

廃校の発生原因としては児童数の減少が基本であり、主に①が理由の多くを占める。だが、近年は廃校は減少傾向となっている。

公立学校の年度別廃校発生数（平成14年度～平成29年度）

資料 1



↑文部科学省「平成 29 年度廃校施設活用状況実態調査の結果について」から引用

平成 14 年度から平成 29 年度に発生した廃校の数は 7583 校であり、そのうち施設が現存するのは 6580 校だった。それらの中で、活用されているのは 4905 校で全体の 74.5%であり、多くの廃校が早い段階で新しく活用されている。活用されていないのは 1675 校で、今後活用が決まっているのは 204 校、決まっていないのは 1295 校であり、残りの 176 校は取り壊し予定となっている。活動の用途が決まっていない理由としては大きく 2 つあり、「地域からの希望がないこと」「施設が老朽化していること」があげられる。

施設が現存している廃校の数	6,580 校	
活用されているもの	4,905 校	(74.5%)
活用されていないもの	1,675 校	(25.5%)
活用の用途が決まっている	204 校	(3.1%)
活用の用途が決まっていない	1,295 校	(19.7%)
取壊しを予定	176 校	(2.7%)

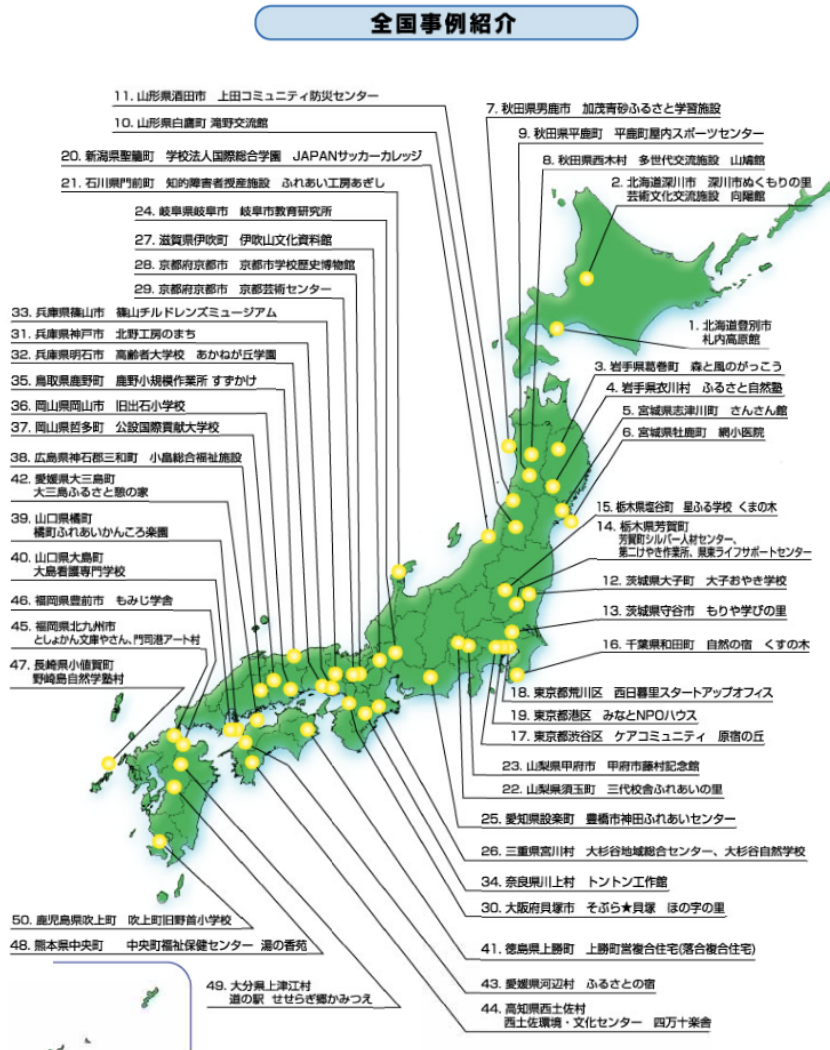
↑上記と同様の調査より引用

## 2. 文部科学省の取り組み

日本においては、文部科学省が廃校の発生状況の調査や活用の例などを調査しまとめている。また、独自のプロジェクトも行われている。

・廃校リニューアル 50 選(平成 14 年度)

廃校を特色ある方法で活用しているというものを、全国の廃校活用例の中から 50 選抜し、まとめて公表する。それにより、その施設等を広く周知し、今後廃校の活用を行う中で新たな活用のアイデア促進を図る。



↑文部科学省「廃校リニューアル 50 選」より引用

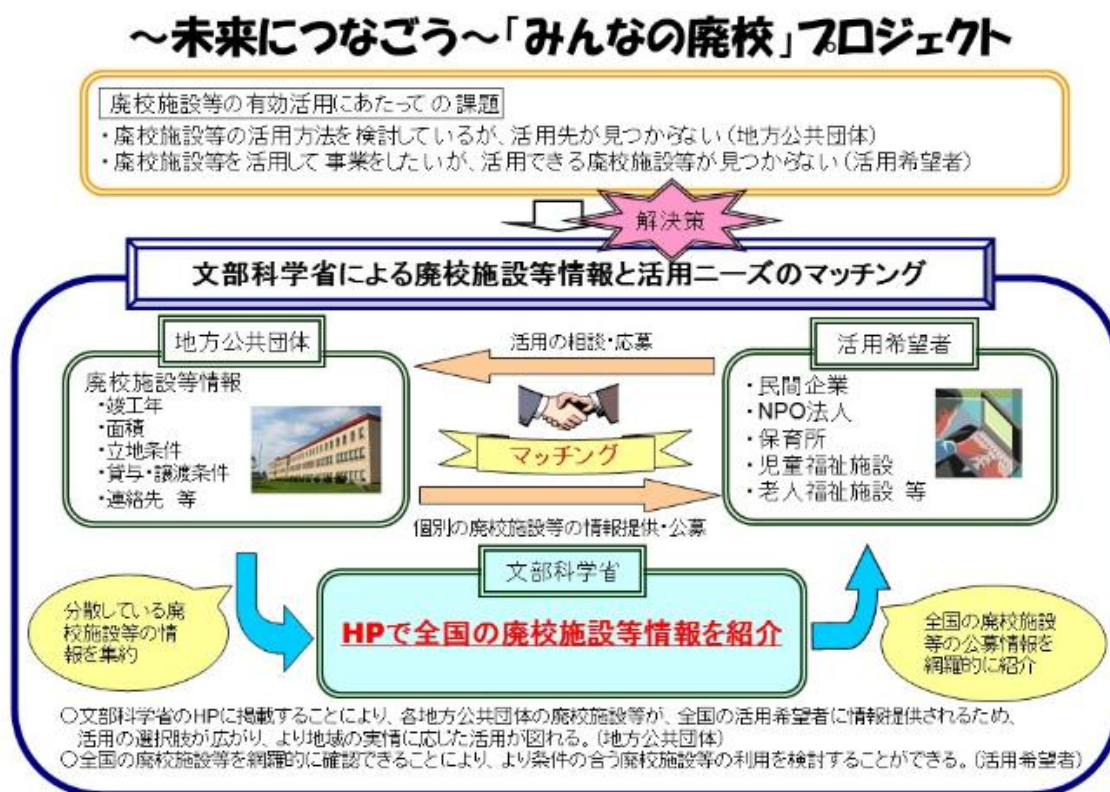
・廃校施設活用状況実態調査

1～2 年ごとに定期的に行われている調査。廃校の発生数及びその発生原因と活用の状況

を把握するために行われている。

- ・～未来につなごう～「みんなの廃校」プロジェクト(現在進行中)

上記の調査によって集約した未活用の廃校の情報を、一覧にしてより細かく公表し、民間企業・学校法人・NPO法人・社会福祉法人・医療法人など今後活用したいという意志のある場所や人々とのマッチングを行う。



↑ 文部科学省公式 HP より引用

### 3. 廃校利用の例

今回、個性のある特徴的な廃校活用の事例について調べてみた。

- ・ the SITE(京都府京都市・元田中駅周辺)

2017年にオープン。もとは美術学校だった。現在はアトリエや作業スペース、カフェが入る複合施設に。オープンの際には、京都市の劇団「ヨーロッパ企画」によるワークショップや、企画編集グループ「ホホホ座」によるトークイベントなどが開催された。地域の人々が気楽に芸術に触れる事が出来たり、また展示スペースに困っている芸術系の学生や

クリエイターが利用することが出来る。

・むろと廃校水族館(高知県室戸市)

室戸岬にあった公立小学校を改修し、2018年にオープンした。教室の机や椅子はほとんどそのままに残されており、懐かしい雰囲気を楽しむことが出来る。屋外プールにも魚が飼育されており、不思議なムードが感じられる。また、飼育されている生き物は地元の漁師の方々の協力によって集められていたり、入館料に室戸市民割があったりと、地域に密着した施設となっている。

・隼 Lab.(鳥取県八頭郡八頭町)

町をあげたイノベーションプロジェクトの一環として、その拠点に廃校となった公立小学校が選ばれた。民間企業7社が出資し、合同出資会社「シーセブンハヤブサ」が設立され、2017年にオープンした。オープニングイベントには1000人以上が集まり、町全体にその存在を示した。1階にはテラスのあるBBQも可能なカフェとレンタルスペースがあり、ヨガ教室などで地域住民によく利用されている。2階・3階には、シェアオフィスが10室以上あり、現在は空きを待つ企業も出てきている。図書室は写真などの展示スペース、家庭科室は料理教室など、学校の強みを活かしている。

#### 4. おわりに

自分の母校が廃校になることに関してかなり悲観的になっており、学校という形で母校が残らないことがとても残念だった。しかし、今回調べてみて、廃校のうち8割近くが活用されていて、自分が予想していたよりも廃校には高い需要があるのだと分かった。また、現在人々に親しまれている元廃校を調べてみて、新しく生まれかわった姿の母校がたくさんの人で賑わう未来もけして悪くはないと感じた。ただ、やはり今回調べる前の私のように、廃校についてよく知らなかったり、活用された施設の存在が知られていないことが多いため、今後はもっとこれらを周知する動きが高まっていけば良いと感じた。

## 〈参考〉

・ 文部科学省 公式 HP

<http://www.mext.go.jp/>

・ the SITE 公式 HP

<http://the-site-kyoto.com/>

・ ひがしこうち旅 公式 HP

<http://higashi-kochi.jp/>

・ 隼 Lab. 公式 HP

<https://hayabusa-lab.com/>

・ レアニッポン

<https://www.rarenippon.jp/>